

改革選挙院衆

# 「今国会で結論を」

## 首相 定数削減明言せず

安倍晋三首相は15日の衆院予算委員会で、衆院選挙制度改革について「今国会で結論が得られることに期待している」と述べ、早期に結論を出すべきだとの認識を示した。一方、衆院議長は諮問機関の答申が求めた定数削減については「次の選挙で反映させることも含めて議論してほしい」と述べるにとどめた。(5面に関連記事、6面に質疑要旨)

自民党は定数削減を2020年の国勢調査の結果が出るまで先送りする方針。維新の党の高井崇志氏が「先送りだ」などと追及したことへの答弁。

民主党の玉木雄一郎氏は、最近の株価下落傾向で、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)による

運用で損失が拡大している」と指摘。首相は「想定利益が出なくなれば当然、年金の支払いに影響してくるが、(年金の運用は)非常に長いスパンで見ると、その時々損益が直ちに年金額に反映されない」と反論した。

維新の初鹿明博氏は、丸



衆院予算委で維新・初鹿明博氏の質問への答弁のため挙手する丸川珠代環境相。左は島尻安伊子沖縄・北方担当相。国会内で15日、藤井太郎撮影

川珠代環境相が東京電力福島第一原発事故後に定めた除染などの長期目標について「何の科学的根拠もない」と述べたことを追及。

「反放射能派がわーわー騒いだ」と発言したことを批判すると、丸川氏は「リスクは全くのゼロでなければ受け入れられないという入がある」ということをイメーシした。福島のみなさんのことを申し上げたわけではない」と述べた。

しかし、丸川氏は福島に

関する部分以外は撤回していない。初鹿氏は「いままでの環境省というのはエコだなんだと言っていたればよかった」との発言をただが、丸川氏は「職員が震災以降の5年間は大変苦勞しながらやってきたことを強調しなかった」と釈明するにとどめた。

放送法が求める「政治的公平性」を巡り、民主党の山尾志桜里氏が「一つの番組でも判断するのか」と追ったが、首相は「『番組全体』は一つ一つの番組の集合体であり、一つ一つ見て全体を判断することは当然のことだ」と主張した。

高市早苗総務相は一つの番組が違反していると判断する場合について、「投票日前日に(特定の党の主張に偏った)放送番組が組まれ、別の見解を示す特集番組の企画がないなど極端なケースだ」と強調した。

【野原大輔】

### 丸川環境相発言

初鹿明博氏(民主・維新)  
「メディアは文句は言うが責任は取らない」とも語った。

丸川珠代環境相 報道機関の社員時代は客観性を踏み越えて発言することに制限があった。評論家とは質が異なると感じており、その発言になった。

## 丸川環境相 「環境省、エコと言っていたらよかった」

丸川珠代環境相が追加被曝線量の目標について「何の科学的根拠もない」などと発言した7日の講演で、環境省やメディアをやゆしたととれる発言をしていたとして、15日の衆院予算委員会で追及された。丸川氏は釈明に追われた。

予算委では、初鹿明博議員（維新）が講演のメモを入手したとして、丸川氏が7日の長野県松本市での講演で、環境省の仕事や「今まで『エコだ何だ』と言っ

### 講演で発言 追及され釈明

ていけばよかった」などと発言したと指摘。丸川氏は、原発事故以降に環境省が除染などを担当するようになり、「震災が起きてから大変苦勞の多い仕事をやってきたことを強調したい」という思いから言葉が出た」などと説明した。

また初鹿氏は、丸川氏がメディアについて「自分の身を安全なところにおいて批判していれば商売が成り立つ」「文句は言うけど何も責任は取らない」など

と発言したと指摘。丸川氏は「客観性に基づいた指摘、報道は大変重要な、国民の知る権利に奉仕する機能」などと答えた。

（小坪遊）

◇

福島県の内堀雅雄知事は15日の記者会見で、丸川氏から9日に謝罪の電話があったことを明らかにした。「自分自身の言葉が足らず、県民に不快な思いをさせてしまい、申し訳なく思う」と話していたという。

読売 2016年2月16日

初鹿氏 組み体操は学習指導要領にはない。やめた方が良い。  
馳文科相 組み体操の練習中、上に乗っていた生徒がバランスを崩して落下し、下の生徒が頸椎(けいつい)を脱臼骨折した(という中学3年生の報告がある)。こんな事故は一件でもあってはならないというのが、文部科学省の姿勢だと認識している。年度内には結論を出す。

### 組み体操是非「年度内に結論」文科相

朝日 2016年2月16日

### 組み体操の事故

#### 「1件もならぬ」

馳文科相

馳浩・文部科学相は15日の衆院予算委員会で、運動

会などでの組み体操で相次いでいる重大事故について「1件でもあってはならない」と述べた。年度内に組み体操の事故防止に向けた方針を示す考えも改めて表明。安全対策に取り組み姿勢を強調した。

組み体操の事故対策について問われ、馳氏は2014年度に組み体操の練習で頸椎を脱臼骨折した中学3年生の男子の事故に触れて「こんな事故は1件でもあってはならないというのが、教育行政を所管する文

科省の姿勢だ」と述べた。文科省は、年度内に過去の事故を分析し、どう対応するかを最終的に判断する。